

CAMPUS 八戸学院

vol.58

行政機関×高等教育機関 階上町

夢を叶えるカリキュラムをデザインする

令和3年度 学校法人光星学院 『スポーツ局』『健康管理局』を設置！

今年度、八戸学院大学のもとにあったスポーツ局を法人に移し、大学だけではなく系列校のすべてのスポーツにかかわる部や機関を統括します。これにより、所属する学生・生徒がより活き活きとスポーツに取り組める支援体制を整えます。

また、私たちの学生・生徒・園児、そして教職員の健康の増進と学校・職場環境の安全安心の向上を担うべく健康管理局を設置しました。

スポーツ局

学校法人光星学院の有するスポーツに関する教育・研究機能を有効に活用し、学生・生徒等のスポーツの競技水準の向上およびスポーツを通じた人材の育成を図り、広くスポーツの振興・発展に寄与する。

■令和3年度の事業計画

- ①スポーツクリニックの開催
(硬式野球・サッカー・ラグビー・バスケットボール・陸上競技・スピードスケート)
- ②アスリートのための栄養講座の開催
- ③スポーツ教室(地域貢献活動)
- ④女子アスリートの健康支援
- ⑤スポーツに関するセミナー
- ⑥リーダーズトレーニングの開催 等



硬式野球部
八戸学院スポーツアカデミー
野球クリニック
(2020年2月28日)



陸上競技部
八戸学院スポーツアカデミー
陸上競技クリニック
(2020年2月12日)

健康管理局

学校法人光星学院の学生・生徒・園児ならびに教職員の健康を保持し、その増進を図るとともに、本法人が設置する各機関における安全の確保を図る。

CONTENTS

- 3 スポーツ局・健康管理局を設置
- 4 令和3年度のはじまりにあたり
- 6 行政機関×高等教育機関 階上町
- 8 研究室訪問
学際性という視点からの地域経営に関する研究
- 10 八戸学院光星高等学校
夢を叶えるカリキュラムをデザインする
- 12 八戸学院 TOPICS
- 14 令和3年度入学式・入園式
- 15 ステラ・フォーカス
- 16 令和3年度の未就園児教室
～親子で笑顔あふれる楽しい時間を～
- 17 同窓生の広場
- 18 理事長散策



『検証 むつ小川原の30年』

江波戸 宏昌／デーリー東北新聞社



全国総合開発計画及び新全国総合開発計画が目標として掲げる「地域間の均衡ある発展をはかる」方針に基づき、1970年代初頭、巨大な工業地帯の建設を核とする「むつ小川原開発計画」が策定されましたが、2度のオイル・ショックを経て、核燃料サイクル施設誘致へと方針を転換し、当初の計画は事実上挫折しました。

私は、この書を通し、私たちの故郷である青森県を対象とする開発の試みの過程を学んだだけではなく、「むつ小川原開発計画」の挫折により、私たちの国が真の意味で豊かになる機会を失ったことと、地域振興を実現することの難しさを実感しました。



八戸学院大学
地域経営学部 教授
奈良 卓

CAMPUS 八戸学院

vol.58



表紙

聖アンナ幼稚園の園児が「春の季節祭」で美保野キャンパスを訪れました。桜が満開のグラウンドで木の実を拾ったり、かけっこしたりと元気に遊びました。

建学の精神

「神を敬し、人を愛する」

カトリックの精神に則る道德教育を施し、高尚なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することをもって目的とする。(寄附行為 第3条)

- 八戸学院大学
TEL 0178-25-2711
- 八戸学院大学短期大学部
TEL 0178-25-4411
- 八戸学院地域連携研究センター
TEL 0178-25-2789
- 八戸学院図書館
TEL 0178-30-1695
- 八戸学院光星高等学校
TEL 0178-33-4151
- 八戸学院野辺地西高等学校
TEL 0175-64-4166
- 八戸学院幼稚園
TEL 0178-34-5765
- 八戸学院聖アンナ幼稚園
TEL 0178-45-3670
- 八戸学院第二しのめ幼稚園
TEL 0178-25-2488

<https://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>

令和三年度の 始まりにあたり

八戸学院大学



学長 水野 眞佐夫

大学学長としての着任一年目は、「学生に寄り添い、学生の未来に寄り添う」を大学運営のテーマとし、二年目には、「地域が学びのキャンパス」をテーマとしました。どちらも八戸大学として開学以来、本学の40年の歩み中で培われてきた魅力・強みを意識したものです。本年度も同様に、「地域創生人財」の育成と地元定着事業の推進」をテーマとし、産官学が一体となり取り組む体制の構築を目指しています。また、本法人は新立体的総合学園構想において、「教育」の力で地域・国際社会に貢献」を掲げ

ています。大学としては、世界が取り組むべき持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、17の目標を八戸圏域の身近な現状へ引き寄せつつ、地域貢献に挑む創立40周年を迎えた節目の年度にしたいと考えています。

令和3年4月
就任



学長補佐 一戸 利則

3月で県立高校の勤務に区切りを迎え、引き続き大学の業務に携わることになりました。新鮮な感覚・視点を忘れずに、大学に新たな変化をもたらせるよう役割を果たしたいと思っています。

八戸学院大学短期大学部



学長 杉山 幸子

短大は今年創立50周年を迎えました。その中で改めて意識しているのは、「伝統をつなぐ」ということです。

どの学校・学科にもそれぞれカラーがあり、それは地域性や教育内容や学校環境、そして学生と教職員のやり取りの中で醸成されます。開設3年目の

介護福祉学科では、今まさにそれが育っているところでしょう。そうしたエトスに身を置くことが、実は学生の学びや成長に大きく寄与していると思います。コロナ禍の今こそ、私たちはこれまで培ってきたものを大切に繋ぎ、発展させる努力を惜しんではならないと感じています。

一方で、伝統は変化するものでもあります。ICT活用を初め、新しい教育技術や方法を取り入れ、学生と共にさまざまなアイデアに取り組んでいきたいと思っています。

八戸学院野辺地西高等学校



校長 橋場 保人

野辺地町の烏帽子岳麓にある本校も、空青く青葉若葉の輝きに満ちた季節となり、新入生を迎え生徒達は活気に満ち、澁瀬とした中で新たな学校生活をスタートさせました。残念ながら昨年度来の新

型コロナウイルス感染が収束する気配を見せず、未だ様々な制約がかけられた「新たな生活様式」での学校生活です。しかし、いつの時代にも何かしらの困難はあるもので、そうした時こそ、明るく前向きな姿勢で、知恵を出し合って、しなやかにたくましく生きていくことが大切であると職員一同そう思っております。コロナ禍の大変な状況ではありますが、明るく澁瀬とした本校生徒の今年の活躍に、ご期待ください！

八戸学院光星高等学校



令和3年4月
就任

校長 中村 良寛

この度、4月1日付けをもちまして、校長に就任いたしました。職責の重さに身の引き締まる思いですが、全力で邁進する所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

4月7日、2977名の新入生を迎え、全校生徒823名で令和3年度がスタートしました。今年度は「建学の精神に基づいた原点回帰」と「光星ブランド化の確立」という二つの運営方針を軸に、生徒一人ひとりの可能性を見出し、それを磨き、最高の進路を実現する教育活動を実践してまいります。そして、保護者や県内外の方々から愛され、誰もが誇りをもって地域と共に歩む学校を目指しますので、今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年4月
就任



校長補佐 木村 一夫

定年退職後の進路を考えあぐねていたところ、東の空に浮かぶ雲が光ったような気がしました。様々な縁があつて本校にお世話になっていきます。今は中学校と高校の違いを発見する日々が続いています。よろしく願っています。

八戸学院幼稚園



園長 内山 伸治

『花を支える枝
枝を支える幹
幹を支える根
根はみえねんだなあ』

これは、相田みつをの言葉です。人間や社会の本質をついた言葉だと思っています。

幼児教育においては、自己肯定感や自信心、やり抜く力や集中力、協調性や創造力などの目に見えない非認知能力を育むこと、まさに人間としての『根』の部分の太く丈夫にしておくことが大切です。未来に向かってたくましく生きる力を育むために、五感を働かせて楽しく遊べる環境づくりや保育者と子どもとの共感的な関わりに重点を置いて保育・教育活動を充実させていきたいと思っています。

『夢はでっかく 根はふかく』
(相田みつを)

八戸学院聖アンナ幼稚園



園長 山西 幸子

令和3年度の取り組みとして
①丁寧な教育・保育を実践する
②子ども一人一人への理解を深める
③モンテッソーリ教育への学びを深める
の3点を掲げました。

子ども自身が持っている力を信じて、子どもの自立へのお手伝いをして参ります。

子どもたちへは、毎日の「あたりまえ」を丁寧に繰り返すことを実践して参ります。「日常生活の練習」を繰り返すことで子どもは「一人でできた」という体験を重ねていきます。子どもたちが、ゆったりとした気持ちで自信をもって自立できるように関わっていききたいと思います。

子どもへの理解を深めることで「質の高い教育」を目指し、それが子どもたちにとっては「質の高い学び」であることを大切に参ります。

八戸学院第二しのめ幼稚園



令和3年4月就任

園長 澤井 睦美

今年度、「明るく元気な子」「自分の考えを持てる子」「心豊かな子」をモットーに新たなスタートを切り、早3ヶ月が経とうとしています。新入園児も進級児も新しい環境に馴染んできているようです。日常である幼稚園生活に慣れることは、子どもにとって必要なことであると同時にたいへんな努力を要するだろうと、この時期は、職員一同、それぞれの子どもに応じた言葉や手・時間を掛けながら、いつにも増して丁寧な援助・支援を行っているところです。

本園では、日々の教育・保育活動、行事について、実施可能な形態や方法を探りながら進めていくことを基本方針としながら、状況を読みつつ、命と健康を守ることを大前提に、園児たちとともに充実した時間を共有していきたいと思っています。

普通科進学コース 国際教養系

グローバルな感覚を養い、英会話力をつける

英語教育・異文化理解を中心に学習

- ・海外留学したい
- ・世界に繋がる仕事がしたい
- ・自然に英会話ができるようになりたい
- ・英語の上級資格を取得して進学したい



2年L組
ジョン レゲーロ ペロニア

将来は国際線のパイロットになりたいと思っています。私はフィリピン国籍のため、母国も含め多くの国に行きたいです。パイロットになるためには、国際感覚も必要ですが、勉強面が先かと思い普通科進学コースの国際教養系を希望しつつも、現在は特別進学コースに在籍し、朝から勉強をしています。次の目標は、英語検定準1級の取得です。

このコースで力をつけて国際教養系の仲間と共に「短期の留学」や「海外語学研修」に参加したいと思っています。夢を叶えるためにも、ここで頑張ります。

ポイント

フィリピンCNE1での海外語学研修やオンライン英会話。

姉妹校のエドグレン高校（三沢基地内）との交流など、英語力を伸ばせる環境があります。

普通科スポーツ科学コース

競技力向上とスポーツを基盤としたキャリア教育

スポーツ理論・栄養学・ケガの予防など多様な角度からスポーツを探究

- ・トップアスリートを目指したい
- ・スポーツを通して就職・進学したい
- ・将来、スポーツに係る仕事がしたい
- ・消防士・救命士などの公務員を目指したい



2年D組
根本 なぎさ

私が普通科スポーツ科学コースを選んだ理由は、創部された女子サッカー部で全国大会出場を目指し、勉強も両立して頑張りたいと思ったからです。このコースは、専門スポーツの実技だけではなく、スポーツ理論や様々な競技も含めスポーツ全域を広く学ぶことが出来るのが魅力です。将来、私はこのコースで学んだことを活かし理学療法士になりたいです。そのためにも、今年は、ケガの予防やケガからの競技復帰を学べるスポーツ医学検定を受験しようと思っています。

ポイント

八戸学院大学健康医療学部人間健康学科に進学することで、より専門的な知識と技術を身に付けることができます。

八戸学院光星高等学校

夢を叶えるカリキュラムをデザインする

時代の変化に合わせ、2学科6コースに改編！！

普通科

特別進学コース	密度の高い学習指導の下で国公立大学や難関私立大学合格をめざします	
進学コース	理系	理数系科目を主体とした授業を受け興味分野に応じた大学をめざします
	文系	文系科目を主体とした授業を受け興味分野に応じた大学をめざします
	ITビジネス系	専門的な授業・資格取得に励み進学や公務員など多様な進路をめざします
	国際教養系	英語教育・異文化理解を中心とした授業で世界に繋がる仕事をめざします
総合学習コース	基礎的な授業・資格取得に励み専門学校への進学や就職をめざします	
スポーツ科学コース	多様な角度からスポーツを探究しスポーツ関係の大学進学や就職をめざします	

保育福祉科

保育コース	子どもたちの未来を育む幼稚園教諭や保育士などをめざします
福祉コース	福祉の心で寄り添いながら活躍できる介護福祉士のエキスパートをめざします

進路希望に合わせた時間割をデザインする「単位制」

与えられた学びから、自ら選択する学びへ

「単位制」は、自分の目標や興味、関心等に応じた科目を選択することが可能です。併せて、学習がより効果的に行われるよう、より柔軟かつ適切な履修時期の設定が可能となるセメスター制（前期後期制）を導入しています。



行政機関



高等教育機関

階上町と八戸学院大学とのつながり

階上町は八戸市の南側に隣接しており、八戸学院大学・八戸学院短期大学の学び舎は、階上町の目と鼻の先にあって、その距離の近さから町内に下宿やアパートを生活の拠点に借りて、大学に通学されている学生も多く、町内の商店や町民にとって大学も学生も大変身近な存在です。

また、八戸大学の時代から教育分野などで幅広くそして長くつながりがあり、大学と階上町が政策分野で連携した最初の取組と言えるものとしては、「生涯学習事業」であると思います。階上町の「生涯学習事業」は、平成6年度に開催した生涯学習まちづくり推進本部での最初の研修会において、八戸大学から「生

階上町



町長 浜谷 豊美

- 1956年 生まれ 階上町出身
- 1979年 弘前大学農学部卒業
- 1980年 青森県職員
- 1982年 アメリカ農業研修
- 1987年 階上町議会議員(5期)
- 2000年 JA八戸広域理事
- 2002年 保護司
- 2005年 12月から現職
- 2019年 青森県町村会会長・全国町村会理事

涯学習と行政の関わり」について講演いただいたことからスタートしました。その後も大学から多くの御支援をいただきながら、事業開始から15年以上の年月を重ね、令和2年度には町制施行40周年記念事業として、全国生涯学習市町村協議会との共催と一般社団法人全国元気まち研究会の協力を得て「階上町生涯学習元気まちフォーラム」を開催し、町内外への情報発信を行いました。今後も学習活動を通して生涯学習の視点から町民自身が輝けるように事業継続が重要であると認識しています。

連携協定がもたらしてくれたもの

平成25年3月19日に階上町と八戸学院大学(当時は八戸大学)とで連携協力に関する協定を締結、その後平成27年3月

26日に八戸学院大学短期大学部(当時は八戸学院短期大学)を加え、3者による協定を締結しました。

協定では、それぞれの保有するまちづくり、健康づくり及びスポーツに関する情報、ノウハウ等を用いて相互に協力して、生涯学習の推進と地域住民の健康増進、スポーツ活性化による社会発展に貢献することを目的に掲げています。これまでそれぞれの分野で連携してきた実績を、大学から連携していただいた人数で表すと延べ1,100人を超える方々から階上町へ御尽力いただいています。

分野別では、「健康づくり」については、町民を対象とした歩数計による運動量測定や分析、町民文化祭での健康チェックコーナーの開設、町の健康

いても令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間とした「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「生涯しあわせに暮らせる「階上ライフスタイル」の実現」を基本理念に掲げ、施策を展開しています。

学生に直接的に関係する施策として「移住定住」があり、町内に住みながら近隣の大学に通学している方の定住も重要であると考え、階上町に住みながら奨学金を返還している方の前年度返還金に対し補助する「ふるさと定住促進補助金交付事業」を創設しました。また、今後は「共育型インターシップ事業」を実施し、学生が住民とともに地域の課題を解

決していく流れを作り、その学生が階上町に移住したいと考えてくれないものかとも思っています。

そのような中、大学に期待することは、町村と大学とが持つ「人財」と「知識」を活用できるように、より連携を密にし、地域課題の解決に対し密接に関係を築いていくことです。そのためには学生さんに地域活動に入り込んでいただき、新たな地域の原動力となり、その学生が地域を創出してくれることを大いに期待しています。その「人財」となる学生を育成する大学には、未来を担う若者の集まる拠点として積極的な魅力ある存在になっていただきたいと思っています。



短大生による着ぐるみショー（はしかみ臥牛山まつり）



バスケットボール部が審判などボランティアとして協力（階上町防犯・交通安全少年球技大会）



健康医療学部による健康チェックコーナー（町民文化祭）



健康ウォーク（はしかみ臥牛山まつり）



階上町 PR 顔出しパネル製作（八戸学院地域連携研究センター）



連携協力協定調印式の様子

学際性という視点からの地域経営に関する研究



八戸学院大学
地域経営学部 教授
田村 正文

東北大学大学院情報科学研究科博士課程／
博士（情報科学）
2011年4月から八戸大学ビジネス学部にて
勤務
2021年4月より現職

研究テーマ 地域経済・経営
担 当 科 目 経営科学、数学、
地域活性化システム論、統計学、
経営情報論、地方財政論、
保健統計学Ⅰ、保健統計学Ⅱ

① 研究活動について

経営学とくに管理については英語ではマネジメント（Management）と表現されます。英語の構文でmanage toは「首尾よくする」という意味ですから、経営学とは一言でいえば「事業を首尾よく管理（経営）する方法」について検討したものであると言えます。伝統的な経営学では、（営利）企業でかつ大規模な企業について検討してきました。例えばF・テイラーの「科学的管理法」では大手の鉄鋼メーカーでの、H・ Fayolの「経営管理過程」は鉱業を幅広く展開していたデュボン社での、「人間関係論」を導き出したことで知られるホーソン実験のG・E・メイヨー・F・J・レスリスバーガーはウェスタン・エレクトロニクス社（大企業であるAT&Tの子会社）での、それぞれの経験に基づいて現代の経営理論の骨

子を構築したと言えます。さらには、F・W・テイラーやH・ Fayolは、大学などに所属する研究者ではなく、実際に企業での職長や経営者でした。そのような実際の現場を観察することによって、その特徴を見出すという意味においては、経営学は経済学よりも実学的・実務的であると言えるのではないのでしょうか。

一般に「会社を経営する」というと「いかにして儲けるか・利潤追求」のイメージがあるかも知れませんが、経済学や経営学という「利潤＝売上－経費（コスト）」と表現される範式について、経営学的には「売上」をいかに増やすか＝「マーケティングや経営戦略」、いかに無駄を省くか（あるいは効率よく運営するか）＝「経営管理」、いかに効率よく意思決定を行うか＝「意思決定・組織論」、金銭的な流れについての検討＝「会計」という具合に大きく分類さ

れていると思われます。

営利企業だけでなく、伝統的な社会環境の変化とともにベンチャービジネスやスタートアップ企業、さらにはNPO等に代表される非営利企業のように様々な経営体が現れるようになりまし。このような時代とともに誕生した新しい仕組みにも、経営学は柔軟に対応しています。それにあわせて経営学も、純粋な営利企業の分析のみならず、より広く、同じ目的を有した「組織全般について対象を拡大しているようにも思われます。さらには現在の経営学は「地域」という一見すれば漠然とした対象にも拡張されてきています。例えば八戸地域（圏域）とは、八戸市をはじめその周辺の市町村という地理的に限定された範囲ですが、その中にも行政、生産者（産業）、消費者（顧客）のようにそれぞれの主体があります。さらには生産者が財・サービスを創り出すときに「付加価値」が生み出されることで、他の財・サービスと異なる差別化を図っているともみることができます。つまり地域の経営とは、「それぞれの地域に含まれている主体を如何に活用し、運営するか」とまとめることができるでしょう。

さて私の現在の研究は、「地域経営」という概念を基軸として取組んでいます。先に八戸地域（圏域）という言葉を用いた例を挙げましたが、地域という範囲を規定する時、市区町村、より大きくは都道府県というのが一般的と思われる。しかし八戸市は旧くは八戸藩さ

らには南部藩の影響を強く受けていましたが、都道府県が定められると南部藩の多くは岩手県に属することにはなったものの、八戸市をはじめとした青森県東部、秋田県鹿角市は、岩手県とは別の県に含まれるようになりました。元々は同じ空間に属していたものが県境の設定により人為的に分断されたものの、その後も現在に至るまで、文化・風習、交流などは受け継がれており、かつての藩であった交流範囲が現在にも生き続けていると考えられます。そのような、いわば隙間的な対象ではあるものの、「地域間交流」が研究キーワードの一つとなっています。

具体的に、今までの研究においては、上述した内容を踏まえつつ歴史的に見て地域間交流が続けられている青森県と北海道を対象に、北海道新幹線開業に伴う青森市と函館市の居住者を対象にWebによるアンケートを実施し、さらには函館市・青森市の各商工会議所や沿線自治体などへのインタビューを行い、青函交流圏における新規ビジネスの可能性やそれぞれの地域間での企業の連携等について検討しました。この内容をまとめ執筆した論文（丹羽教授と共著）が、2019年に実践経営学会より「学会賞」を授与されるという身の丈余る榮譽を受けました。

さらには、最近よく言われますが地域への企業の誘致や地域内起業が進められています。起業する方の定住や企業の立地は、地域内での事業所数や雇用者数の増加や地域からイノベーション

ンを創発させる効果が期待されます。八戸市でも情報系（ICT）企業を中心に（サテライト）オフィスが立地しています。このような地方へのオフィス立地に積極的かつ有名なのが徳島県神山町でしょう。神山町については数多くの事例について刊行されておりますが、それら公表された内容に基づき、地域からイノベーションを創出する可能性について、さらには企業から選ばれる地域についても考察しました。この内容で執筆した論文は、2021年に実践経営学会より「研究奨励賞」を授与されました。これらの榮譽に満足することなく、今後も継続して研究を続けていきたいと考えております。

② 学外での委員など

現在、学外の委員会に幾つか所属しています。青森県新産業創造課を事務局とした「イノベーションおもてなしタスクフォース」では、青森県内の企業と首都圏等の企業とのマッチングやそれまでのコーディネートなど、青森県内の産官学金連携によって青森県内の企業の販路拡大、技術向上に関する委員として末席を汚させて頂いております。三沢市は青森県県内で初めて中小企業振興条例を制定しましたが、これを受けて「三沢市中小企業振興会議」では、三沢市内の中小企業の制度利用をさらに促進するにはどうしたら良いか、委員の皆様と一緒に検討しています。

これらの外部の委員会での経験か

ら、地域が輝くためには、企業、顧客、（地域）社会という近江商人の「三方よし」の考えの重要性に改めて気が付かれます。同時に地域に立地している大学の教員として、地域の将来を担う人材の育成を行うことも地域の発展に重要な役割であり責務であると思います。そのようなことを念頭に、青森県や八戸市、三沢市など大学周辺地域の将来に資する人材の育成に励みたいと思いますし、地域の魅力を県外から進学してきた学生にも伝えていきたいと考えています。併せて、種々の委員会などで得られた知見などを今後の研究活動にも活用し、地域に還元できれば幸いです。

③ 学際性としての地域経営

前にも見たように、経営学は時代とともに新たに現れた様々な組織の分析に適応してきました。そのためには従来の経営学の範疇に止まらず、社会学、心理学や情報科学（情報システム）の分野も取り入れています。つまり生産、消費、需要、供給などという経済活動の普遍的な部分は、古来より変化はなくても様々な経済や経営活動そのものの多様化に柔軟に適応してきたとも考えられます。地域経営という観点からも当然、従来の経営学だけでは全体像を捉えるのが困難であるかと思われま

す。さて、私が取得している学位は「博士（情報科学）」です。多くの方々は情報科学という名称からコンピュー

タ・サイエンスが専門と思われる場合もあるようですが、わが国の場合、大学院の研究科の名前がそのまま学位名称に反映されますから、ある意味で偶々、情報科学研究科に在籍していたので、そのような博士の学位となっています（私は、佐々木公明先生「現学校法人尚絅学院理事長及び学院院长」を指導教官として学位を取得しましたが、指導教官ご自身も当時は都市経済学を専攻されていましたので、所属していた講座自体が一般からイメージされる情報科学からはややかけ離れていました）。研究室には経済学、土木計画学、社会システム工学、地理学など異なるバックグラウンドを専攻されてきた方々が集まっており、非常に学際的な研究室でした。そのため、これらを包括した概念として「地域科学」がキーワードになっていました。

大学院で博士論文を執筆した際には、経済学の一般均衡理論という数理モデルを学んでいました。現在の研究内容とは大きく異なっていますが、大学院で学んだ学際的な「視点」が現在の研究活動の中でも大いに役に立っていると感じています。そのようなことから、経営学に加えて大学院で学んだ地域科学という、ものの見方が役に立っていると思われるのです。

大学 全日本学生eレースで
ワンツーフィニッシュ

新型コロナウイルス感染症の影響で多くの自転車レースが中止となる中、レースの機会を与えようと日本学生自転車競技連盟が開催した「第1回全日本学生選手権eレース大会」で、八戸学院大学の寺澤アンドリュウさん（3年）が優勝、畑崎大輝さん（2年）が準優勝を果たしました。



小林市長へ表敬訪問の様子
寺澤君（左から2番目）と畑崎君（右から2番目）

今年1月に初めて開催されたeレース大会で優勝をすることができました。コロナ渦でレース数が少ない中、eレースという特殊な大会でしたが、八戸学院大学が1位、2位を獲れたことは自信につながる良い機会になりました。

eレースは最先端の競技で、自宅からでも参加できるため、ニューノーマルを象徴する競技として注目されつつあるスポーツです。今回のタイムトライアルは、約18kmのコースを30秒間隔で1人ずつ走り、そのタイムを競うレースで、自分の得意分野だったため目標を達成することができました。実際のレースでも結果を残せるように頑張りますので、自転車競技部の活動に注目していただければ嬉しいです。

寺澤アンドリュウ（地域経営学科3年）

今回の大会はバーチャルレースで、高いパワーの維持が必要です。冬期の室内練習の結果、自分が目標としていたパワーよりも高い数値を出してゴールすることができました。結果、2位になることができて嬉しかったこと、室内練習が着実に力になっていることを実感出来たレースでした。次回は優勝を目指したいと思います。また、リアルレースでも結果を残していきたいと思っていますので、応援よろしく願いいたします。

畑崎大輝（人間健康学科2年）

野西高 二つの挑戦 ～スキルアップは資格と講座から～

1 資格取得への挑戦

本校では、ここ数年、検定受検を奨励し合格者を増やしてきました。昨年度は自動車整備士3級受検者全員が合格する成果がありました。また、「オンラインによる英会話講習」をきっかけに実用英語技能検定の受検者と合格者が増えています。学びの機会を増やすことから個々の学力向上にもつながるものと期待しています。

今年度は、「質の向上」すなわち「より上級の資格取得」など、内容の充実を図るために昼休みや放課後に検定受検者の講習会を行っています。受検可能な検定の合格を目指して受検を奨励するとともに、将来の進路実現につなげたいと考えています。



2 出前講座の実施

現在、新型コロナウイルス感染拡大のために、校外での研修はほとんど実施できない状態であり、また、校内における講演や各種研修は慎重に検討を重ねて実施しているところです。そうした状況の中であって学びの機会を失っている現状を打破するために、出前講座の開催を企画しています。

本校での出前講座は、昨年度、保育福祉系列の2、3年生を対象に「認知症サポーター養成講座」を実施できたのみです。この講座は授業だけでは学べない「福祉の現場のことや考え方」を学ぶ貴重な機会となりました。

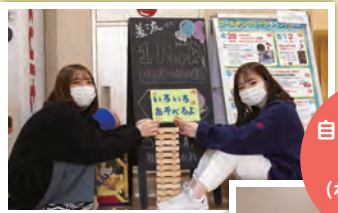


ゴールデンウィークイベントで大活躍

短大 八食センター [5/3] 八戸学院大学短期大学部から学生が参加。



はちたん
読み聞かせ
サークル



自由遊ぶ場
1Park
(わんぱーく)

差波ゼミの学生が新聞紙やチラシ、ダンボールを使って自由に遊べる空間をコーディネートしました。

「楽しい絵本のおはなし会」と題して、八食センターも登場する八戸の海を題材とした大型手作り絵本やからだを動かして楽しめる絵本の読み聞かせを行いました。

光星高 ショッピングセンター
ラピア [5/3]



光星高校チアリーディング部『ラスターズ』がアクロバティックな演技で観客を魅了。観客から大きな拍手が送られました。

アーティスト
「光る絵具で
お魚アート」



佐貫ゼミの学生がサポートし、光る絵の具を使って描いたカラフルで大きなこいのぼりが、光りながら泳ぐ姿は、子どもの日の思い出になりました。



光星高 入試や就職試験に生かせる新聞の読み方



新聞を進学・就職に役立てようと東奥日報社による出前授業が行われ、3年生46名が参加しました。東奥日報社販売局の鎌田浩伸NIE・NIB推進部長を講師に「新聞のルール、読み方」をテーマに、紙面づくりのルールや配置などから入試や就職試験、面接に生かせる新聞の読み方を学びました。

鎌田部長は、「新聞を読んで考え、自分なりの意見を持つことが大切」と生徒にアドバイスを送りました。

※写真提供：東奥日報社

八戸学院幼稚園

だいすきな家族へ♡

本園では、数年前から独自に「ファミリーデー」と称する日を設けています。「母の日」「父の日」の間に大好きな家族へ向けてプレゼントを作り、家庭に持ち帰ります。感謝の気持ちや大好き！という想いを込めて家族に贈ることで、それぞれの家庭では子どもたちの気持ちを喜び、かわいらしさに目を細めているようです。今年のプレゼントは手作りの花束と自分。家族の笑顔を思い浮かべながら丁寧に作りました。

「だいすきだよ！」



ステラ・フォーカス



八戸学院聖アンナ幼稚園

種ばくだんでガーデニング

粘土、黒土、水をよくこねて、花と食べられる植物の種を入れてお団子を作ったら「種ばくだん」の完成！シードボムとも呼ばれるこの方法は砂漠の緑地化にも効果があり、子どもからお年寄りまで気軽に楽しめるガーデニング方法。ひんやりとして粘り気のある土の感触を味わいながら、みんなでお団子づくりを楽しみました。中にはとっても大きい種ばくだんを作った子も。作ったばくだんは好きなところへポーン！聖アンナ幼稚園の園庭には 30 種類以上の種入りばくだんが投下されました。どの植物が芽を出すかはお楽し

み。子どもたちは何が育つか？と芽が出るのをワクワクしながら待っています。



八戸学院第二しののめ幼稚園

親子遠足

毎年子どもたちが楽しみにしている親子遠足に行きました。場所は美保野キャンパスです。直前まで雨が降り天気心配でしたが、子どもたちの元気と笑顔で太陽が顔を出してくれました。遠足の始まりは園長先生の体操です。お父さん、お母さんにだっこやおんぶをしてもらいながら、たくさんスキンシップを取りました。「大きくなった？重くなった？」と微笑ましい会話も聞こえていました。散策の時間ではチャペルを見て、絵本の好きな年長児は図書館へ行き、気になる本を手にと

りじっくりと目を通していました。年中児は制作したこいのぼりを飛ばしたり、かくれんぼをして親子で一緒に思い思いの遊びをして楽しく過ごすことができました。



令和3年度 入学式・入園式

令和3年度の入学式・入園式が開催された。

2年ぶりに実施した八戸学院大学と八戸学院短期大学部は、八戸市公会堂を会場に開催。新入生は、これからの学生生活に期待を膨らませていた。

光星高校と野辺地西高校は各校の体育館、幼稚園は各園のホールを会場とし、新型コロナウイルス感染対策を十分に行って実施した。

4月6日(火)	八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部入学式
4月7日(水)	八戸学院光星高等学校入学式
4月8日(木)	八戸学院野辺地西高等学校入学式
4月8日(木)	八戸学院第二しののめ幼稚園入園式
4月9日(金)	八戸学院幼稚園入園式
4月9日(金)	八戸学院聖アンナ幼稚園入園式



【光星高校】新入生入場



【野辺地西高校】新入生一同、起立



法官新一理事長による祝辞



【八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部】在学生による歓迎のことば



【聖アンナ幼稚園】入園式の前にリラックス



【第二しののめ幼稚園】新入園児紹介



【八戸学院幼稚園】教員紹介



《仲間と目指した全国制覇》

高校時代、硬式野球部に所属しており、2年半の寮生活を送り、練習に汗を流しました。この2年半は、「全国制覇」という目標に向かって厳しい練習や、寮生活などで自身を鍛え、監督・部長・コーチにご指導いただきました。なにより、仲間の存在があったからこそ、部活動を最後までやり遂げる事が出来ました。あの時間は私の財産です。

卒業後、金沢学院大学（石川県）に進学し、遠征試合で高校時代の先輩・仲間・後輩に会える場面も多々あり、懐かしい話で盛り上がった事は、良い思い出です。

《人と人との出会いを大切に》

大学卒業後、八戸に戻り八戸パークホテルに就職しました。社内での配属がレストランに決まり、料理やドリンクなどをサービスしていました。お客様との会話の中で、「光星で野球をやっていた」と伝えると、お客様の顔が笑顔になり、それがきっかけで名前を覚えてもらう事が多く、それがこんなにも嬉しく同時に光星高校を卒業したことを誇らしく感じた瞬間でした。

数年前に部署が変わり、現在は営業部に所属しておりますが、営業で大切にしていることは「挨拶」「感謝」「笑顔」です。「人と人との出会いを大切に」する事を一番重要視しております。仕事をしていると失敗し、気分が落ち込む時もありますが、高校時代の練習に比べればと



八戸パークホテル
営業企画部 主任
松本 竜太 氏

光星学院高等学校
(現八戸学院光星高等学校)
普通科 平成 18 年 3 月卒

自分に言い聞かせることで、自分自身を奮い立たせ、反省・改善などをしながら次の仕事に向き合っています。

社業においての今後のビジョンは昨今の社会情勢が早急に回復することを願いつつ、あらゆる状況に柔軟に対応出来る準備(思考)を行い、アイデアの多様性、価値の多様性、働き方の多様性などを受け入れ、社業を通じて地域貢献が出来ればと考えています。

《後輩へのメッセージ》

後輩の皆さんへ、私は至らぬ点ばかりの人間ですが、今までの経験を踏まえて言い切れることが一つあります。情報化社会において、大変便利な世の中になっ



っており、ネットを通して簡単に国境を超えることは非常に魅力ですが、やはりリアルで対面し、言葉のキャッチボールを交わすことが、一番大切だと思います。人は一人では決して生きていきません。ネット上の間違った情報に流されることなく、自分の考え(軸)をしっかりと持ち、「人と人との出会いを大切にし、人々との繋がりを大事にしてほしい」と思っています。

最後に、在学中の皆さんの未来は無限の可能性を秘めています。自分らしく輝かしい未来になる事を祈念しております。

<聖アンナ幼稚園> 親子 de タッチケア



<八戸学院幼稚園> のびのびお外遊び



<第二しののめ幼稚園> アンパンマンと楽しもう



<聖アンナ幼稚園> モンテッソーリ教具を使って...



<八戸学院幼稚園> 新聞ビリビリ



<第二しののめ幼稚園> ホールで遊ぼう♪



令和3年度の未就園児教室

～親子で笑顔あふれる楽しい時間を～

<八戸学院幼稚園>

- チッチクラス
対象 生後3ヶ月～1歳半頃
開催 年間10回
定員 親子15組
- ステラクラス
対象 1歳半～入園前
開催 年間11回
定員 親子20組
- 園庭開放
開催 5月～11月の土曜日
時間 11時～16時
※行事等により開放しない日があります。

<聖アンナ幼稚園>

- めだか学級
対象 0歳～入園前
開催 年間10回
定員 親子10組
- ベビーマッサージ
対象 2ヶ月～24ヶ月
開催 年間8回
定員 親子5組
- 親子 de タッチケア
対象 2歳～年長
開催 年間3回

<第二しののめ幼稚園>

- ポケット広場
対象 入園前
開催 年間10回
定員 親子10組

詳しくは、幼稚園のホームページをご覧ください。お電話にてお問い合わせください。

皆さんこんにちは。
新たな生活が始まりましたが、充実した日々であることを願っています。

そのオリンピックでは「より速く、より高く、より強く」といわれ、それぞれの競技で、選手たちは頂点を目指します。この言葉は、1891年にキリスト教カトリックのドミニコ会のアンリ・デイドン神父が考え、生徒たちの競技会で学校のモットーとして言われたものです。

それから、今日まで131年が経ち、スポーツも進化し近代化しました。勝つことの意味が追求され、ただ勝つのではなく、正々堂々と、正しく美しく勝つことが求められるようになりました。まさに「心・技・体」が鍛え抜かれた選手のパフォーマンスが認められるようになったのです。特にスポーツを通じた心の修練は、人間育成において重要性を増してきました。

強化指定部 認定書授与式挨拶



今年は東京でオリンピックが開催されます。開催に向けていろいろな問題がありました。なんと開催されようとしています。

そのオリンピックでは「より速く、より高く、より強く」といわれ、それぞれの競技で、選手たちは頂点を目指します。この言葉は、1891年にキリスト教カトリックのドミニコ会のアンリ・デイドン神父が考え、生徒たちの競技会で学校のモットーとして言われたものです。

それから、今日まで131年が経ち、スポーツも進化し近代化しました。勝つことの意味が追求され、ただ勝つのではなく、正々堂々と、正しく美しく勝つことが求められるようになりました。まさに「心・技・体」が鍛え抜かれた選手のパフォーマンスが認められるようになったのです。特にスポーツを通じた心の修練は、人間育成において重要性を増してきました。

学校法人光星学院スポーツ局
局長 法官 新一



今やスポーツは競技においても、その鍛錬された体と技、そして心が一体となったパフォーマンスが他に感動を与え、勝つ意味とその奥に深い価値観を兼ね備えるように進化したのです。

さらに、スポーツにおけるルールは世界共通です。国々の法律はみな違うけれども、スポーツのルールは世界を縦横につながる役目を持つようになりました。

だから私は思う。現代のスポーツは、世界平和の基礎でありスポーツマンは世界の平和を希求する国際人として望まれるようになったのだ。

皆さんにも言いたい。スポーツを通して人間としての自分自身を磨き、国際的視野に立って、人のため、世のためになるような日々のトレーニングに励み、語学や知識の習得にも努力することを期待しています。

美保野キャンパス大改修が決定

今年度最初の理事会が開催されました。案件には、令和2年度の事業報告、決算報告がなされ、続いてキャンパス整備計画も承認されました。

整備計画の概要は美保野キャンパスを中心にしたものですが、今後順次各学校の改修についても検討を続けていくつもりです。取り敢えず大学40年、短大50年になる年を迎え、色あせた校舎を校歌に歌われている白亜の殿堂として蘇らせたいと思います。同時に各施設も長年の風雪に耐えてきたものの化粧直しをします。

いよいよ学生達の学び舎を中心とした美保野キャンパスのリニューアル工事が始まります。

昭和46年の短期大学開設に合わせて建設された職員住宅は、すでに取り壊しが始まりました。跡地には増加するスポーツ学生のための寮を増築します。また旧専攻科校舎は従来の短期大学部の介護福祉科の専用校舎となりますが、大学・短大のキャリア支援課のオフィスに改装されます。現状より学生のサービスやオフィスの機能が高まることを期待しています。

また土間のしっかりした旧自動車整備実習場は、最新のトレーニング機器を導入し、部活をはじめ授業で使用で



昭和56年に建設された職員住宅取り壊しの様子



「結束」 ～新年度を迎えて～

令和3年度の辞令交付式は、新型コロナウイルス感染症防止のため、規模を縮小して開催されました。また、法人全教職員を対象としたSD研修は、理事長が各学校に出向き実施しました。内容は、財務状況の報告から始まり、各学校の現状認識およびそれぞれが抱える課題の共有と今年度の方針説明、そして将来構想についての検討事項が話されました。

理事長はコロナ禍で新年会や忘年会などが中止になり、教職員相互の懇談の時間を無くしたことを惜しみ、それに変わる何かを考えるように指示がありました。総務部秘書室を中心に協議し、八戸学院の名入りバックとタオルを作製。研修の最後に教職員全員に配付することになりました。

全教職員が同じものを持つということについては、前学院院长中村キヤ先生の「一人ひとりに支えられ、束になつ



た力は大きさ」（過去発行された法人誌「樹海」に掲載）という思いが込められています。



- ①八戸学院大学
- ②八戸学院大学短期大学部
- ③光星高校
- ④野辺地西高校
- ⑤事務局職員
- ⑥八戸学院幼稚園
- ⑦聖アンナ幼稚園
- ⑧第二しなのめ幼稚園



美保野キャンパス 木漏れ日の小道



八戸学院大学の正門からまっすぐ伸びるケヤキ並木には、講義室や図書館、学生食堂につながる小道があり、多くの学生が行き交います。

木々の隙間から木漏れ日が差し込み、青々と生い茂る葉は風が吹くと「さわさわ」と心地よい音を立て、穏やかな気持ちにしてくれます。

夏の強い日差しさえも遮るこの小道は、次の講義へ移動する学生に暑さを忘れさせてくれる癒しの空間です。

美保野キャンパスを訪れた際には、木漏れ日が差し込む小道を歩いてみてはいかがでしょうか。

八戸学院大学

